

令和5年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名： 福祉コース（総合問題）

標準的解答例

問題Ⅰ

問1

図1からは、全業務時間のうち利用者との会話にける時間の比重が1%であること、図2からは、介護職員と利用者の会話の77%が介助のための声かけ、関係性を築くための声かけが15%であることがわかる。介護現場では、解除のために利用者に声をかけることはあっても、利用者との日常会話は極端に少ないことがわかる。

問2

遠隔操作型のコミュニケーションアンドロイド(テレノイド)を使って認知症の人に話しかける研究では、大学生が対面して話しかけてもコミュニケーションがほとんどとれない人が、テレノイドを介して話しかけると会話ができ、テレノイドをいつくしみ語りかける行動がみられた。テレノイドと会話する様子を見た介護職員は、異口同音に「こんなにしゃべれる人だとは思わなかった」と言った。しかし、複数の調査から介護施設では日常会話がとても少ないことがわかっており、認知症の人は日常会をする機会がない、話しかけられることがないから話さないことが推測された。

問題Ⅱ

下肢装具を着用している女子生徒が地元の中学校で特別支援学級に入って授業を受けている。今年3年生になり修学旅行に行くことになった。しかし、本人は自分で歩くことができるとはいえ修学旅行の団体行動に合わせて皆と行動を共にすることができるか不安であった。それでも本人は中学校最後の思い出にぜひ参加したいとの意欲を示した。そこで、担任教師と学年主任は本人が下肢装具を着用して行動することを前提で生徒本人および学級委員を交え、旅行業者と移動スペース、休憩場所、ホテルの部屋割りなどを検討し、できるだけ他の生徒と一緒に行動できるよう計画した。